

2014年9月6日から10日までの5日間、島根県隠岐郡島前地域を訪れた。私がこの島前合宿に参加しようとしたのは、大学1年の夏休みを無駄に過ごしたくないという漠然とした思いがあったからだ。また、授業で学んだまちづくりに関することに興味を持ったからだ。日本の農山村地域では、過疎化や高齢化などの深刻な問題があることは以前から知っていたが、自分一人が何かしても意味がないだろうし、まず何をすれば良いのかもわからないし、自分には関係ないだろうとどこかで思っていた。そのような気持ちで受けたまちづくりの講義だったが、それぞれの地域の特徴を生かして、まちの「宝」を見つけることによって問題を食い止める活動をしている地域があることを知り、その解決方法に興味を持った。その中で島前地域では、高校の魅力化というプロジェクトを地域一体となっていて行っていることを知った。つまり、この地域では高校をまちの「宝」だと考えたのだ。島前で唯一の高校である島前高校がなくなってしまうと、若い世代だけでなく重要な働き手であるその親の世代も島外に出て行ってしまうのだ。自分と近い世代の人が、自分と全く違う生活環境で過ごしていることに驚き、実際に行ってみたいと思った。

島前合宿では島前高校のヒトツナギ部、西ノ島中学校の3年生、また島にある公営の学習センターと呼ばれる塾で行われている高校1年生の夢ゼミに参加した。実際に自分近い年齢の島の学生と交流することができた。そこで感じたこと、よかった点、悪かった点、改善点をまとめた。

【ヒトツナギ部との交流】

2日目に島前高校のヒトツナギ部との交流を行った。ヒトツナギ部とは島前高校の部活動のひとつで、夏に行われるヒトツナギの旅に向けて企画・運営をしている。訪れた島外の中高生に、島前の魅力を人とのつながりを通して体験してもらおうというのがこの旅の目的である。そのため島前の観光地には一切行かせないという徹底ぶりだ。今回私たちが参加した交流会は、ヒトツナギ部の活動を支えてくださる地域の人を呼んで、今年度の旅を終えて地域の方に感謝を伝えることができているという反省を踏まえ、地域の方との関わりを見直すために行われた。

よかった点

○ヒトツナギ部員の率直な想いを知ることができた。

部員が地域の人に向けた一人ひとりのコメントでは、この反省を次につなげよう、新しいことに挑戦しようという強い思いが伝わってきた。挑戦には失敗のリスクが伴うが、この島では失敗したときや苦しいときに支えてくれる地域の人がたくさんいる。今回の交流会でも「もっと頼っていいよ」とおっしゃっている地域の方がたくさんいてすごいなと思った。それにはやはり普段からの信頼や感謝が重要であることも気づかされた。また、ただ言葉を言うだけでなく行動することに意味があることも感じた。

○地域の方の考えを聞くことができた。

正直、こんなにもたくさんの方々が集まってくださる会だとは思っていなかった。フェリーに乗って隣の島まで高校生のために集まってくださる大人が多くいるというのは、

当たり前のことではないなと感じた。これには高校生の準備の効果もあるようで、ある方は「わざわざ電話をいただいたから来たのよ」とおっしゃっていた。そして、地域の方が島について高校生とともに真剣に考えており、島を誇りに思っている姿に圧倒された。また私自身、何年も住んでいる自分の地域について魅力や欠点などほとんど何も知らないことを恥ずかしく思った。

悪かった点

○今回大学生が参加したことで、高校生には影響を与えることができたかもしれないが、地域のひとにとって大学生はどのような存在だったのか。

高校生とは昼食や準備の時間を通して交流することができ、部活動以外でも勉強や進路のことについて話すことができた。しかし地域の人とは高校生と地域の方が交流しているところに入るといふ形だったので、もう少し積極的に質問をすればよかったなと反省が残る。

改善点

○地域の人に、企画の流れがしっかりと伝わっていなかった。

時間が少ない中での会だったので、「どのような流れなのかわからなかった」「話し合いが途中で終わってしまった」とおっしゃっている方もいた。タイムスケジュールを貼り出したり、事前に具体的な時間を伝えればよかった。

○高校生がヒトツナギに長く関わってくださっている人の名前や顔を覚えていないようだった。

名前を読んでもらえると歓迎されている気持ちが伝わりやすいし、地域の人にとって部員は変わってもヒトツナギに関わっているという事実は同じなので、先輩たちが築いた人間関係なども一から作り直すのではなく、継承していけるところは継承するべきだと思った。同じく島前高校ヒトツナギ部出身の近藤さんや廣瀬が「〇〇さん。お久しぶりです。」と話しかけに行って世間話や親しくしている姿に信頼関係を感じた。私自身もそのような関係の人がたくさんいることに尊敬を感じ、地域の人と協力してく上で重要だと思った。

【中学校出前授業】

3日目には西ノ島中学校での出前授業を行った。内容は3人ずつのグループに分かれ大学生が中学生からインタビューを受けるというものだ。島にはない大学を身近なものに感じてもらい、進路選択の幅を広げてもらうというのが主な目的だ。

良かった点

○中学生と気さくに話すことができた。

私は東京生まれ東京育ちなので島の生活とは異なる点も多いが、アイドルが好きだったり、部活動に熱心に取り組んでいたり、年齢が近いから話すことができる話題も多く、最初は緊張していたが、徐々に話が弾むようになった。最後にチャイムが鳴っても残って話しか

けてくれる生徒がいたのはとてもうれしかった。また、将来の夢を教えてくれる生徒もいて「自分の夢をかなえるためには大学に行ったほうがいいですか。」などと質問してくれたのもとてもうれしかった。

○あまりかしこまった形ではなく、リラックスしてできた。

最初のグループ分けの時に、動物の鳴きまねをして自分のパートナーを探すというので、リラックスする雰囲気が生まれたと思う。また、普段の授業とは違って椅子や机がない環境だったので、生徒も普段とは違うということを感じながらも、かしこまらずにできたのではないと思う。

悪かった点

○質問の内容が基本事項で終わってしまった。

名前や、出身地などの基本事項を終えると途端に質問がなくなってしまった。そこで、どうすればいいのかわからず、中学生にとっては質問をする練習でもあったのに自分から話してしまうことも多かった。

【夢ゼミ】

4日目には学習センターで高校1年生の夢ゼミに参加した。学習センターとは海士町にある高校と連携した公営の塾である。そこで行われる講義が夢ゼミである。夢ゼミでは様々な職種の人を招いて話を聞く機会があったり、将来に向けて選択肢を広げ、具体的にするための授業が行われている。

良かった点

○豊田さんの話を聞くことができたこと。

学習センターの運営などの中心である豊田さんのお話を聞けたことはとても貴重だった。わずか10分程度だったが、とても引き込まれたし、高校生のころからこのような知識を持った人と接することができる環境があることは素晴らしいなと思った。

悪かった点

○課題の内容を深く理解できていなかった。

「Want」、「Can」、「Need」と話を進める中で、「Need」の内容が高校生には難しく感じたようなのだが、その中で私自身高校生に適切なアドバイスをすることができず、模造紙にまとめる際に時間がかかってしまった。

最後に、今回このような企画に参加してよかったと思う。島というとコンビニや遊ぶ場所もないという現代とは真逆のイメージだったがそれは違った。むしろこれから目指していくべきだと考えられる人との関わりやコミュニティの在り方のすばらしさを知ることができた。これは言葉や説明だけでは感じることはできない温かさだった。実際に行ってみて初めて知ることは多く、今後も現場に足を運んで様々なことを学んでいきたいと思った。